



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行・横浜スペイン協会事務局

年頭のご挨拶 — 創立20周年を迎えて —

会長 下山 貞明

2010年の新しい年を皆さまと共に迎え、心よりお慶び申し上げます。

当協会は1990年7月7日に設立され、本年は20周年を迎える年となりました。その間、歴代駐日スペイン大使をはじめ、関係機関のお力添えをいただきながら、今日まで会員の新旧交替がありましたにも拘わらず、新たな力が加わり充実した事業を展開してまいりました。このことは、ひとえに役員並びに会員の不断のご協力の賜ものと存じ、深く感謝申し上げます。



20周年記念事業の実施にあたっては、前年度より準備をしており、記念事業は年間を通じて実施していきたいと考えています。

その主力事業として

- ・2010年6月11日（金）ホテルモンテ横浜にて全国スペイン友好団体との懇親会（第2回横浜会議）を開催します。
- ・同日続いての20周年記念パーティでは、スペイン大使をはじめご来賓の皆さまをお迎えし、横浜港のすばらしい夜景を眺めながら懇親を深めます。
- ・スペインに関する恒例の学会「セルバンテス懇話会」第13回（2010年）を、20周年記念事業として横浜にて開催いたします。
- ・また秋には、会員の作品によるスペイン写真展、絵画展を計画しています。
- ・そして、20周年事業の最後を飾るものとして、12月3日（金）にはクラシックギターの第一人者荘村清志さんと、スペイン音楽を得意とするピアニスト下山静香さんによるコンサートを行います。
- ・このほか、会員有志による桜植樹の地、ロンダ市への訪問なども計画されています。

どうか全員の皆さま方には、この20周年記念事業に対し、是非とも積極的にご参加いただき、本事業を大いに盛り上げてくださるようお願い申し上げます。

皆さま方のご健勝とご多幸を祈念して年頭のご挨拶といたします。

創立20周年記念企画進行中！

20周年記念企画の進捗状況について報告いたします。

その他の企画については、決まりしだい、AIYES通信、ホームページを通して逐次お知らせします。

1. 全国スペイン友好団体懇親会（第2回横浜会議）

日 時：2010年6月11日（金）15：00～17：00

会 場：ホテルモントレ横浜 横浜市中区山下町6-1 TEL：045-330-7111

ミーティングルーム「リッチモンド」（2階）

国内各地スペイン友好団体よりお二人ずつをご招待して、各団体間のコミュニケーションを図ります。

2. 創立20周年記念パーティー

日 時：2010年6月11日（金）18：00～20：00

会 場：ホテルモントレ横浜 横浜市中区山下町6-1 TEL：045-330-7111

ビュッフェスタイル・ディナー：バンケットルーム「シェル」（13階）

「シェル」は山下公園と横浜港が眼前に広がり、夜景も美しい会場です。

3. セルバンテス懇話会横浜大会：近日中に横浜らしい会場を確保する予定です。

4. 記念コンサート

日 時：2010年12月3日（金）19：00～21：00

会 場：みなとみらい小ホール 横浜西区みなとみらい2-3-6 TEL：045-682-2020

出 演：荘村清志（ギター） 下村静香（ピアノ）

演奏曲など詳細は決まりしだい「AIYES通信」、ホームページで紹介いたします。

5. 私たちのスペイン展（会員作品展）

日 時：2010年9月21日（火）～27日（月）

会 場：みなとみらいギャラリーB

写真・絵画・工芸作品の3部門で、会員の皆さまの作品を広く募集します。募集要項など詳細は同封のチラシをご覧ください。



▲創立15周年記念「私たちのスペイン展」（2005年）

創立20周年記念イベント AIYESコンサート

「ラテン音楽の歓び」成功裏に終える

2010年は、当協会が創立されちょうど20年の節目の年に当たります。そして、これを記念して全国スペイン友好団体懇親会などをはじめとし、盛り沢山のイベントが企画・計画されています。

これに先立ち昨年11月27日（金）、東神奈川駅前にある“かなつくホール”において「ラテン音楽の歓び」と銘打って、創立20周年記念イベントが開催されました。

第一部は、A・ピアソラの曲を中心にクラシックの雰囲気、スペイン語による詩の朗読などをはさんだ出しもの。第二部では、誰でもが知って



▲左より、岩崎良子さん（ピアノ）、小又弘昌さん（テナーサクソ）、石井三栄子さん（ヴォーカル）、高木潤一さん（ギター）、長岡敬二郎さん（パーカッション）

いるポピュラーな曲。さらにアンコール曲では、会場の皆さんと一緒に歌うといった構成で、およそ2時間の公演でした。

観客席から舞台に向けてかけ声がかかるなど、楽しさに満ちあふれた公演となり、ご来場の皆さまからは、「楽しかった」「すばらしかった」「またこんなコンサートをしてください」などという、多くのお声をいただきました。出演のアーティストの皆さまが、それぞれ素晴らしい個性と演奏技術を持ち、それを十分に発揮しました。

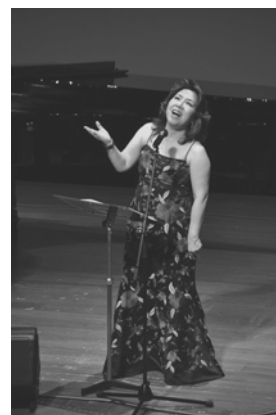
ご都合で会場に来られなかった会員の方々に、少しでも当日の雰囲気を味わっていただけるよう、ここに写真を掲載します。
(撮影：広報担当・渡邊昭夫)



▲「El Duende」を朗読する
フランシスコさん



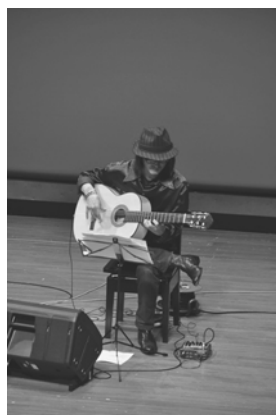
岩崎良子さん



石井三榮子さん



小又弘昌さん



高木潤一さん



長岡敬二郎さん

スペイン・サロンへのお誘い

●2010年のスペイン・サロン●

「新年親睦パーティー」

恒例となりました横浜スペイン協会新年会を下記のとおり開催いたします。

日 時：2月13日（土）13：30～16：00

場 所：波止場会館／5階 多目的ホール 中区海岸通1丁目1番 TEL：045-201-3842

参加費：会員、一般とも 2,000円

詳細は同封のチラシをご覧ください。

スペイン・サロンでは、多数の会員が参加できるようなテーマ、アイデア等を募集しています。講師やサロンに対するご意見・ご要望をお持ちの方はぜひ、サロン担当までご連絡ください。

特別寄稿「9月のスペイン・サロンに出席して」

カミーノ・デ・サンティアゴ巡礼と奉仕の旅

望月 達也

●9月のスペイン・サロン「カミーノ・デ・サンティアゴ巡礼と奉仕の旅」

講師：問屋正勝会員

日時：2009年9月5日（土）13:30～15:30

会場：横浜市民活動支援センター 4階／研修室

今回のスペイン・サロンは横浜開港150周年を記念するのに相応しい企画でした。大航海時代をもたらしたスペインの栄光の過去を思い、国際的に人気を博している巡礼の現在と、オスピタレーロの活躍で巡礼者と共に双方が癒しを求める新しい時代の先駆けを感じるお話を伺いました。

◆過去-巡礼の起源と歴史：

今回で3度目の巡礼をされた問屋氏のお話は簡潔で分かり易く、かつその体験談はとて印象深く感じました。巡礼の歴史をきちんと理解して現地に臨む事は、彼の地で享受する数々の恵みやご支援に対する礼儀だと思い知らされました。準備不足で初めて出掛け、大いに助けて頂いた私は深く反省させられました。

聖ヤコブの墓（ラテン語：Compostum）参り：

聖ヤコブ即ちサンティアゴの墓が813年に星の降る野原（スペイン語：Campo de estrella）で発見され、サンティアゴ・デ・コンポステラと命名されたとの事。一時期エルサレム巡礼が難しくなり、当地がカトリック教徒には三大巡礼地の一つとなった由。

巡礼の最盛期は12世紀で、イスラムからの国土回復運動と連携しており、当時は年間30万～50万人が当該聖地を訪問したが、コロンブスが米国大陸を発見した1492年にレコンキスタが完了し、巡礼も下火になったとの事。往時の隆盛の証ともいえる絢爛豪華な教会や、修道院、巡礼宿の盛衰を上手に説明して頂きました。

日本との比較に丁度良い文章を見つけました。

『日本では、平安期から室町期いっぱいまでつづいた熊野詣の流行は「蟻の熊野参り」ということばさえ生んだ。（中略）伊勢神宮への御蔭参りは室町期にはじまったし、また観音信仰は西国三十三カ所巡礼になり、さらには弘法大師信仰は四国八十八カ所の遍路というかたちになっていまだにつづいている』（司馬遼太郎著「街道をゆく22 南蛮のみちI」 P.259）

◆現在-私の体験：

オスピタレーロ：問屋氏は巡礼宿のボランティア管理人として、今回も延べ7週間活動してこられたとの事。オスピタレーロの主な仕事は、掃除（寝室、トイレ、台所等）、お金の管理、夕食、朝食の準備、更に大きな役目として巡礼者の話相手（交通、健康、地理、旅の計画）があり、大いに活躍された様子が語られました。疲れ切った旅人が彼らの活躍で癒されると共に、彼ら自身もご奉仕が出来る事の喜びを味わっている様子。

巡礼者のみならず、このオスピタレーロも国際色豊かで、スペイン人以外にイギリス、アメリカ、ドイツ、



▲ビジュアル資料を用いてカミーノを語る問屋会員

イタリア等さまざまな国の方々が奉仕活動を通じて、国際貢献をされており、我が国の首相が唱える“友愛”が見事に実践されているように聞こえました。『巡礼者たちはときに、修道院にとまることもあった。修道士や修道女は、巡礼を聖ヤコブスであるとみなす習慣を持っていたので、かれらが到着すると、かがんでかれらの足を洗ってやった。(中略)『巡礼はお大師さんと同行している』という日本の遍路に対する見方と、このあたりは似ている』(同 P.260)

◆将来-今年の特別任務：

巡礼手帳の奉納：問屋氏は、日本で初めて発行された巡礼手帳（Credencial：巡礼者のパスポート）をサンティアゴ巡礼博物館に奉納され、無事にお役目を果たされたとの事。これをきっかけに多くの日本人が巡礼をめざしてスペインに出掛け、異国の旅を体験されたと願います（ちなみに、2007年及び2008年の日本人巡礼者数は327人、412人）。今年春（4月29日）、東京都文京区関口在のカトリック大聖堂で行われた問屋氏の出発式に私も参列した為、改めて目的達成の喜びを共有でき嬉しく思いました。

四国お遍路との交流支援：1990年代には熊野古道とスペインの巡礼路が共に世界遺産に登録され、サンティアゴの道は復活し（2008年は12万人の巡礼者）、1998年には姉妹道協定を締結されているとの事を初めて知りました。更に、今回問屋氏のご尽力でスペイン・レオン県モリナセカ村と愛媛県愛南町、香川県宇多津町が国際提携を果たし、相互に外国人観光客の招聘に協力される事となった由。長年の巡礼・お遍路の歴史を持つスペインと日本の両国が国際交流を深める事で世界の平和が促進され、安心できる世の中になって欲しいとの思いを深めました。

講話ではさまざまな活動の写真も開示され、スペインの魅力を大いに語られました。問屋氏は奉仕活動を通して国際協力を身をもって実現されておられ、心から敬服致します。

今回のスペイン・サロンには、現地でオスピタレーロの問屋氏に直接お会いし、癒された巡礼者が多数参加して居られました。講話後に皆さんが巡礼経験談を語られ、その素晴らしさを共感し、共有されました。同じ時期に巡礼した私としては、巡礼とはこのように奥深いものであったかと痛感させられ、大いに勉強となりました。

当サロンを開催されたスペイン協会及び講師の問屋氏に改めて深く感謝申し上げます。

スペイン語教室

2009年夏期特別講座を開催

水曜日教室の「ヒラソル」、「クラベル」を後期から新たに担当されるグラナダ大学出身のフランシスコ先生のご協力を得て、夏期特別講座を開きました。初めての「スペイン語によるスペインの歴史・文化」の講座でしたが、先生の豊かな講師経験と判り易い語り口で、楽しい講座となりました。以下、受講者二川さんの感想をご紹介します。

夏期特別講座を受講して

二川 昭雄

●スペイン語教室夏期特別講座

日時：2009年8月3日～26日の間 計6回 10:30～12:30

会場：県民サポートセンター 708号室

スペイン語を独学で学習開始して2年、横浜スペイン協会のスペイン語教室（「ロサ」クラス）に通い始めて半年の自分が、今期、無謀にも「夏期特別講座」に挑戦しました。終わってみれば「学習成果+楽しい思い出」として残りました。

振り返ると、楽しいものにできた理由は、①学習対象がスペインの歴史・地理・料理等に明確化され、そ

これらの概要が事前に書面(先生の論文)で渡されていたため、十分に予習でき、授業に役立ったこと。②先生がゆっくりと判り易いスペイン語で話されるので初心者でも何とかついてゆけ、また内容にストーリー性と先生ご自身の意見も感じられ、聞いていてとても楽しかったこと(先生個人の資質によるところ大と思う)。③普段の各クラスの垣根を越えた特別講座であり、初めてお会いする他クラスからの受講生の皆さま方とも楽しい交流(会話・昼食)ができたこと、などが挙げられます。

企画いただいた皆様、ありがとうございます。このような特別講座が、可能な限り次年度以降も継続されることを期待させていただきます。



▲グラナダ出身のフランシスコ先生。筋金入りのスペイン語講師です

会員投稿

アルベルゲ宿泊体験記 第二章 カストロヘリス (Castrojeriz) ・前編

久保田 誠志

オルニジョスのアルベルゲ(巡礼者用宿泊所)を7時に出発。夜は明けたばかりだ。空気は冷たいが澄んでいて気持ち良い。アルベルゲ脇の教会の前、鶏が停まった石の十字架の所で記念の写真を撮る。今日はマリアさんも加わり三人旅だ。何百年も時間が止まったままのオルニジョスの集落は50メートルほどで終わる。その先は白く乾いたカミーノだけである。両側は牧草地がうねうねと果てしなく広がる。

しばらくの間、緩やかな上りだ。2時間ほど歩くと一軒ぼつんと公設のアルベルゲ「アロジョ・サン・ボール(Arroyo San Bol)」があった。

何組かの顔見知りのグループに追い越されたが、今日はまともな時間に出発したので気持ちゆとりがあった。



▲カミーノの道標「帆立貝」を頼りにひたすら歩く

10時頃、丘の上を砂埃を巻き上げて走る車がUターンして私たちの前で停まった。日本製の四輪駆動に乗った男が「オラ、ケタル」と挨拶してきた。マリアさんと何か声高に話した後、すぐに「ブエン・ビアッへ(お元気で)」と男はカミーノを走り去った。密猟レインジャーだそうだ。

道は完全なメセタ(台地)に入った。遥か遠くにカンタブリアの山なみが見えるだけである。前後に人影はない。いつの間にか最後尾だ。先ほどまであった気持ちのゆとりはもうない。少し急がないと。しかし家内とマリアさんは女同士で話に夢中である。日本にいたころの思い出話が尽きないみたいだ。

午後1時、メセタから下りたところにオンタナス(Hontanas)の村が忽然と現れた。住民数十人のカミーノの中継点だ。泉のスペイン語“フエンテス”が村の語源だそうだ。中世の巡礼者にとってここは砂漠のオアシスだったのだろう。狭い道には犬一匹と猫一匹。どちらにも無視された。人気は全くない。ようやくレストラン兼オスタルだ。

店先は小さな広場になっていて村の名の語源となった泉があり、水がこんこんと湧き出ている。マリアさんは疲労困憊しており「今日の巡礼はこれで終わり」と、ここの私設アルベルゲで泊まることにした。一泊12ユーロだがシャワーと洗濯機が気に入ったと言っていた。お互いに「いつかまたね」と言ってアブラッソ（ハグのスペイン語）して別れた。たった数時間の同行なのに別れが少し辛かった。

一時間ほどの休憩をして出発。少し歩き出してすぐ村はずれ。ここのカミーノは車道と並行しており、時折走る車を横目で見ながら歩いた。途中、ポツンと置き去りにになっているサン・ミゲル（San Miguel）の遺跡の脇を通り、三時半頃大きな古い建物の裏門に着いた。そこでは私達を追い越した男女4人がいかにも疲れたといった恰好で休憩していた。ここはサン・アントン修道院（Convento de San Antón）。正門側には「猛犬注意」の張り紙があった。犬の気配はなかったが住人はいるようだ。近くに私設のアルベルゲもあった。今日の目的地のカストロヘリスまでまだ5キロある。急がないと。

サン・アントン修道院から先はどこまでも真っ直ぐのアスファルトの車道だ。道の両側は麦畑。午後の暑い日差しの中をひたすら歩く。遙か先の山頂に砦らしいのが見える。カストロヘリスだ。（続く）

賛助会員紹介

スペイン料理 カサ・デ・フジモリ 関内本店

「せっかくの取材、楽しくいきましょう！」と、急な申し出にお付き合い下さった協会会員と総勢5名で、11月27日、カサ・デ・フジモリを訪れました。

1970年創業のカサ・デ・フジモリのその佇まいはまるでスペイン。店内の照明は控えめで、古民家風の落ち着いた空間が広がります。ランチタイムの店内はほぼ満席、おひとり様も多く見受けられました。

ビジネスランチプレート（890円）ほか、ランチメニューが豊富です。今回私がいただいたのは、サラダ、スープ、パン/ライス、デザート、コーヒーのついたスパニッシュ・ランチ「マグロのロースト オレンジとアンチョビのソース（1,500円）」。ほんのりとしたオレンジの酸味が、淡白なマグロによく合います。他に、「イベリコ黒豚のロースト（1,500円）」、「牛ほお肉のシチュー レンズマメソース（1,050円）」「アンコウとアサリの漁師風（950円）」を注文しました。いずれもスペインのお母さんを思い出す、ほっとする味付けでした。

協会会員にはサングリアがサービスされ、昼間からほろ酔い気分と楽しいお喋りで、日本にいることを忘れ、優雅なひとときを過ごしました。



▲「マグロのロースト オレンジとアンチョビのソース」(中央)



▲まるでスペインにいるような店構えに出迎えます

13時を過ぎての来店客には、コーヒーまたはデザートのサービスが付きまします。正面には姉妹店のバル・エスパニョールがあります。

〒231-0012 横浜市中区相生町1-25

(JR根岸線関内駅徒歩5分)

TEL : 045-662-9474

営業時間 : 11:00~22:00

(日曜・祝日12:00~21:00)、無休

URL : <http://www.casa-de-fujimori.co.jp/>

一 賛助会員各社の会員サービス内容一

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より、表記のサービスが受けられます。

賛助会員	住 所	電話番号	会員サービス内容
レストランオーリーブ	横浜市西区高島2-5-10	045-441-4996	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Español	カサ・デ・フジモリ関内本店前	045-651-1074	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ目黒店	JR目黒駅（東京）徒歩5分	03-5420-5328	サングリア1杯無料
(有)フレア	鎌倉市大船2-17-8	0467-42-8531	押し花体験費用の割引
日西商事（うさぎのいる島）	東京都港区台場2-2-1 ザ・タワーズ・ダイバ1F	03-5531-2151	生ビール1杯無料

//////////////////// 新入会員紹介 //////////////////////

ビセンテ・アルカニース・ブセタ (Vicente Alcañiz Buceta)

東京都 2009年9月15日入会

Soy Vicente. Llevo en Japón más de diez años. Me gustan muchas cosas de Japón por eso creo que llevo tanto tiempo en este país.

En cuanto a mis orígenes..., soy de Valencia y además de Japón y también he vivido en Estados Unidos.

***** 事務局からのお知らせ *****

11月11日付の神奈川新聞にて、当協会の紹介と先日行われたコンサート「ラテン音楽の歓び」の告知記事が掲載されました。また、25日の同紙「バザール」のコーナーで、入場券の読者プレゼントを行いました。


桜の植樹などを通じてスペインとの文化交流に取り組んできた横浜スペイン協会（下山貞明会長）が来年、設立20周年の節目を迎える。これを記念して、27日にラテン音楽コンサートを開催。その後も半年間にわたってさまざまなイベントを企画しており、同協会は「多くの人にスペインに興味を持ってもらう機会にしたい」と意気込んでいる。

下山会長は、横浜市港南区長を務めていた1980年代から国際交流に熱心に取り組み、90年に同協会を設立。現在は約120人の会員がおり、スペイン国内や在日スペイン大使館に桜を植えたり、横浜でスペインの語学や料理の教室を開くなどして、両国の文化交流を続けている。

20周年となる来年は、全国各地から約10のスペイン交流団体を横浜に招いてパーティーを開くほか、スペインの写真展や記念講演会も企画している。同協会広報の山田るりこさんは「かつてスペインといえばフラ

ラテン音楽で節目祝う

横浜スペイン協会 来年20周年



メンコと鬮牛のイメーτζだったが、最近はいペリゴ豚などの料理や歴史も知られるようになってきた。協会の節目を機に、スペインの魅力幅広く伝えたい」と話している。

記念イベントの皮切りとなるコンサート「ラテン音楽の歓び」は27日午後7時から、同市神奈川区のなかつくホールで、全席自由3千円（当日3500円）。

▲2009年11月11日
神奈川新聞

（米本 良子）

1993年にスペイン・ロンダ市に桜の苗木220本を植えた横浜スペイン協会会員ら（同協会提供）

<編集後記> いよいよ協会創立20周年の年が明けました。プレイベントの「ラテン音楽の歓び」コンサートも成功の内に終了し本番に向けてよいスタートが切れました。

今号では各企画の進行状況を報告いたしました。定期的な行事ースペインサロンやスペイン語教室等を開催しながらの準備は大変ですが、人に任せないで「手作りの良さ」を発揮するのは協会の得意とするところ。各行事へのお手伝い、スペイン展への出品など「みんなで作る20周年」のために皆さまの協力をお願いいたします。 (鈴木生雄)

編集委員 山田るり子 石井加奈弘 久保田誠志 佐藤陸雄 澤田真人 鈴木生雄 宮崎紗伎 山崎宗城 山下幸子 渡邊昭夫 飯塚 劭

* 投稿寄稿宛先
 横浜スペイン協会会報係 e-mail : aiyes_press@yokohama-spain.jp
 横浜スペイン協会 URL http://www.yokohama-spain.jp

次号の原稿締切は
3月10日(水)です。
 投稿は800字以内、写真1点をお付け下さい。